

「日本人住民と外国人住民の共生」についてのアンケート結果

県には、25,040人の外国人が住んでいます（平成28年12月末現在、滋賀県観光交流局調べ）。これは、県民約57人に一人が外国人住民ということになります。

そこで、県では、日本人住民と外国人住民の地域での交流や共生の現状を知ることを目的としてアンケート調査を実施しました。

★調査時期:平成29年6月

★対象者:県政モニター400人

★回答数:347人(回収率86.8%)

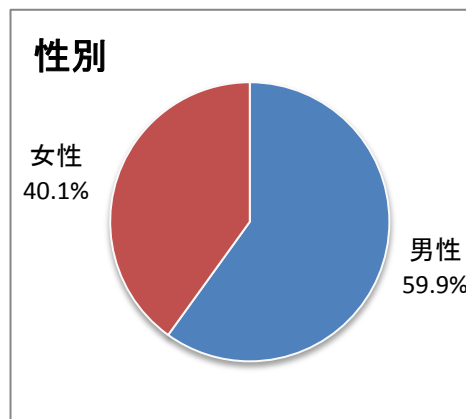
★担当課:商工観光労働部観光交流局 国際室

(※四捨五入により割合の合計が100.0%にならない場合があります。)

【属性】

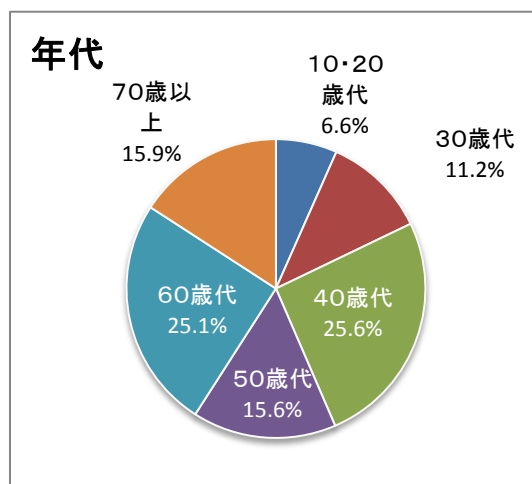
◆性別

項目	人数(人)	割合(%)
男性	208	59.9
女性	139	40.1
合計	347	100.0



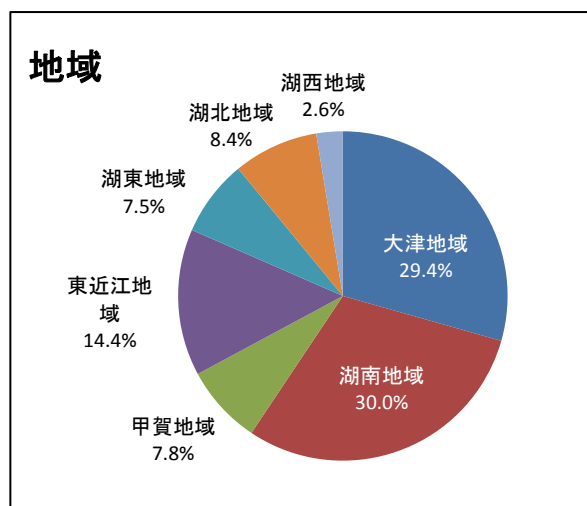
◆年代

項目	人数(人)	割合(%)
10・20歳代	23	6.6
30歳代	39	11.2
40歳代	89	25.6
50歳代	54	15.6
60歳代	87	25.1
70歳以上	55	15.9
合計	347	100.0



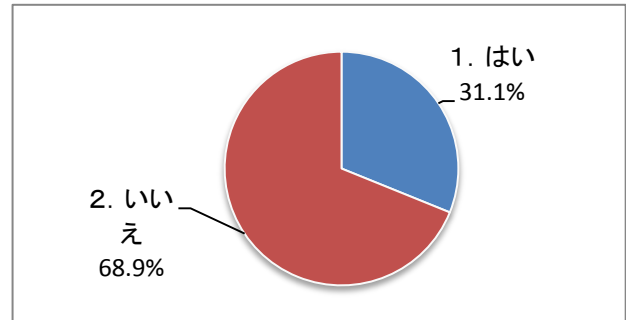
◆地域別

項目	人数(人)	割合(%)
大津地域	102	29.4
湖南地域	104	30.0
甲賀地域	27	7.8
東近江地域	50	14.4
湖東地域	26	7.5
湖北地域	29	8.4
湖西地域	9	2.6
合計	347	100.0



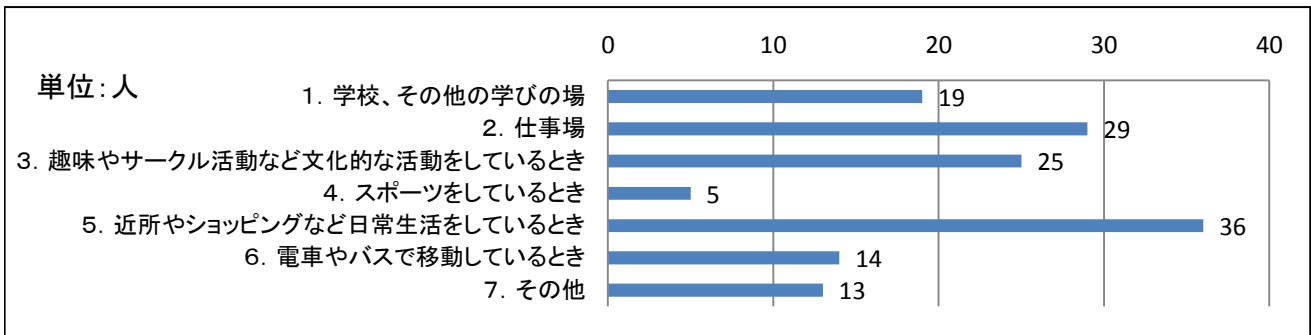
問1 あなたは過去1ヶ月間に、外国人住民と会話（単なる“こんにちは”以上）をしたことはありますか。（回答チェックは1つだけ。n=347）

項目	人数(人)	割合(%)
1. はい	108	31.1
2. いいえ	239	68.9
合計	347	100.0



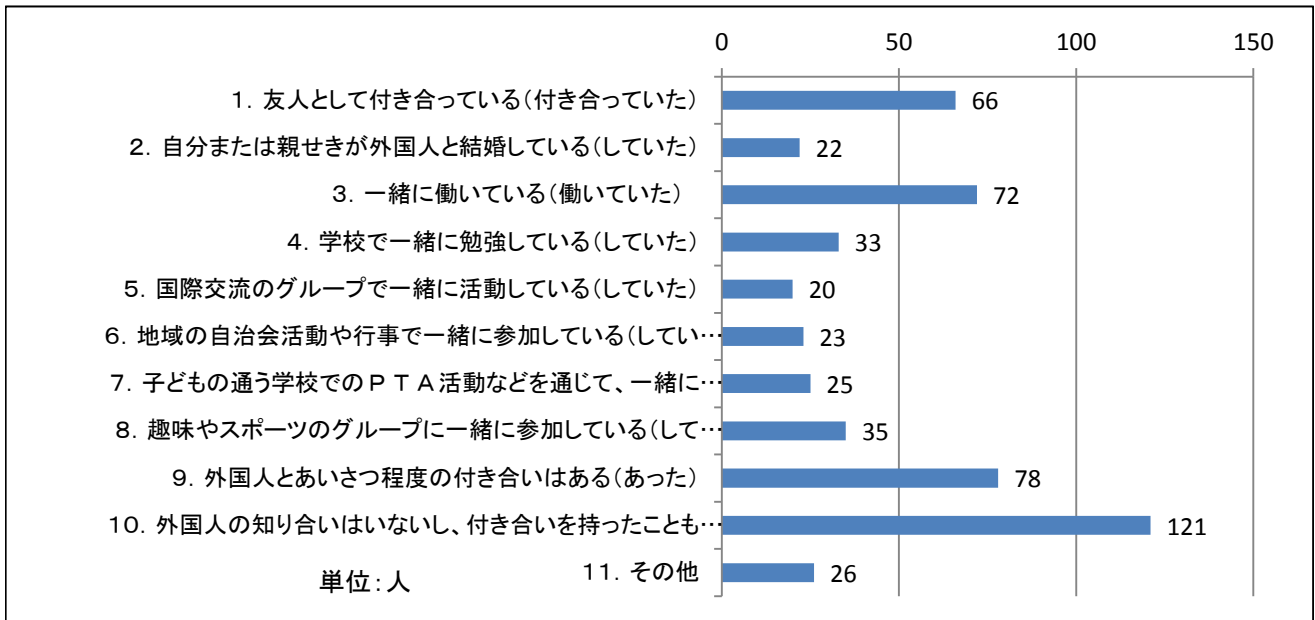
問2（問1で「はい」と選択された方におたずねします。）
この会話は、どこでしましたか。（回答チェックはいくつでも。N=108）

項目	人数(人)	割合(%)
1. 学校、その他の学びの場	19	17.6
2. 仕事場	29	26.9
3. 趣味やサークル活動など文化的な活動をしているとき	25	23.1
4. スポーツをしているとき	5	4.6
5. 近所やショッピングなど日常生活をしているとき	36	33.3
6. 電車やバスで移動しているとき	14	13.0
7. その他	13	12.0



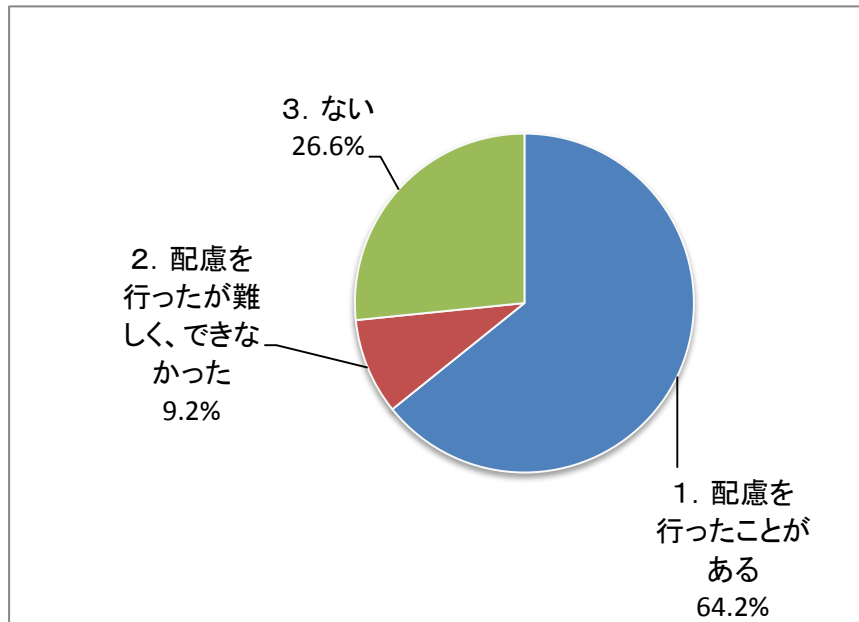
問3 あなたは外国人住民とどのような付き合いがありますか（過去の経験を含む）。（回答チェックはいくつでも。n=347）

項目	人数(人)	割合(%)
1. 友人として付き合いしている(付き合いしていた)	66	19.0
2. 自分または親せきが外国人と結婚している(していた)	22	6.3
3. 一緒に働いている(働いていた)	72	20.7
4. 学校で一緒に勉強している(していた)	33	9.5
5. 国際交流のグループで一緒に活動している(していた)	20	5.8
6. 地域の自治会活動や行事で一緒に参加している(していた)	23	6.6
7. 子どもの通う学校でのPTA活動などを通じて、一緒に活動している(していた)	25	7.2
8. 趣味やスポーツのグループと一緒に参加している(していた)	35	10.1
9. 外国人とあいさつ程度の付き合いはある(あった)	78	22.5
10. 外国人の知り合いはいないし、付き合いを持ったこともない	121	34.9
11. その他	26	7.5



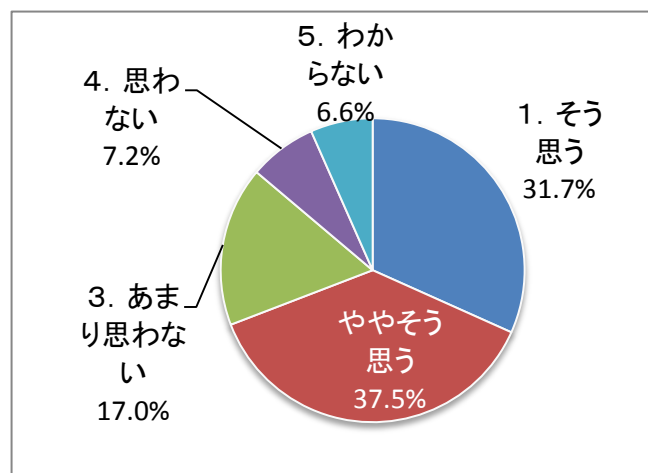
問4 問3で選択肢1～9のいずれかを選択された方にお尋ねします。最近、行政や民間企業などで「やさしい日本語」を取り入れる動きがありますが、これまであなたが関わった外国人住民との付き合いのなかで、「やさしい日本語」のような、言葉の配慮を行ったことがありますか。(回答チェックは1つだけ。n=218)

項目	人数(人)	割合(%)
1. 配慮を行ったことがある	140	64.2
2. 配慮をしようとしたが難しく、できなかった	20	9.2
3. ない	58	26.6
合計	218	100.0



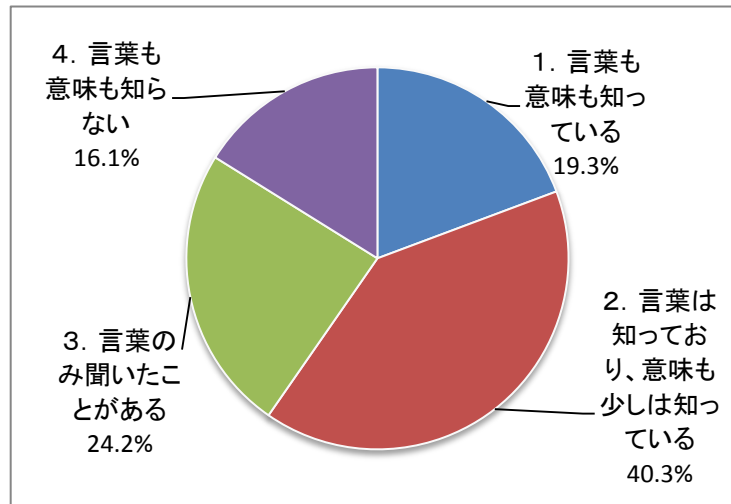
問5 あなたは、外国人住民と地域社会や仕事場、学校、イベントなどで、交流やかかわりを持ちたいと思いますか。(回答チェックは1つだけ。n=347)

項目	人数(人)	割合(%)
1. そう思う	110	31.7
2. ややそう思う	130	37.5
3. あまり思わない	59	17.0
4. 思わない	25	7.2
5. わからない	23	6.6
合計	347	100.0



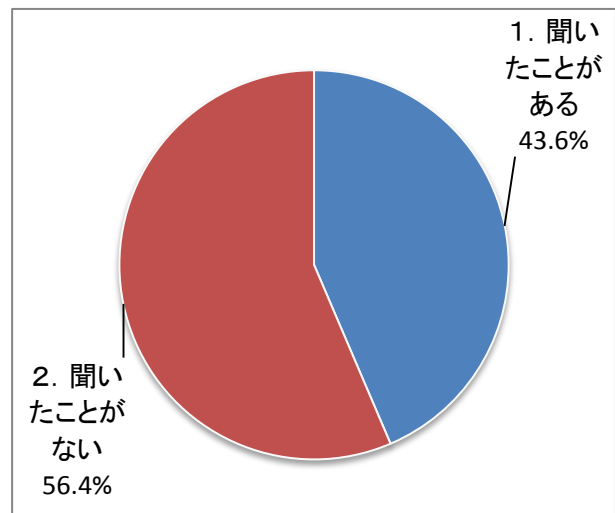
問6 「多文化共生」という言葉や意味について、あなたはどの程度ご存じですか。(回答チェックは1つだけ。n=347)

項目	人数(人)	割合(%)
1. 言葉も意味も知っている	67	19.3
2. 言葉は知っており、意味も少しは知っている	140	40.3
3. 言葉のみ聞いたことがある	84	24.2
4. 言葉も意味も知らない	56	16.1
合計	347	100.0



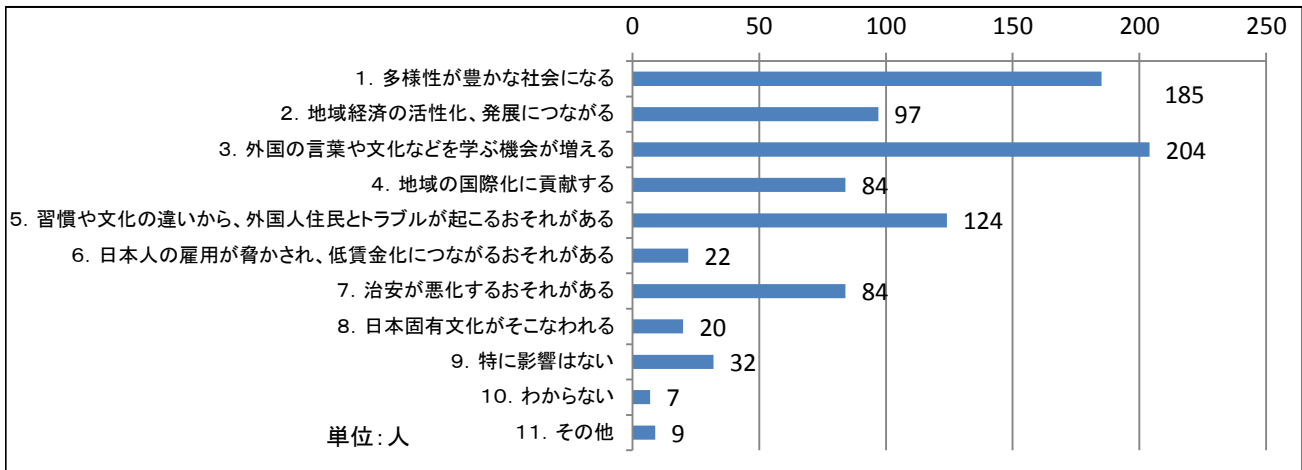
問7 問6で「3 言葉のみ聞いたことがある」「4 言葉も意味も知らない」のいずれかを選択された方にお尋ねします。「多文化共生」とは、国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化を認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくことをいいますが、あなたは、このような多文化共生の考え方を、これまで聞いたことがありますか。(回答チェックは1つだけ。n=140)

項目	人数(人)	割合 (%)
1. 聞いたことがある	61	43.6
2. 聞いたことがない	79	56.4
合計	140	100.0



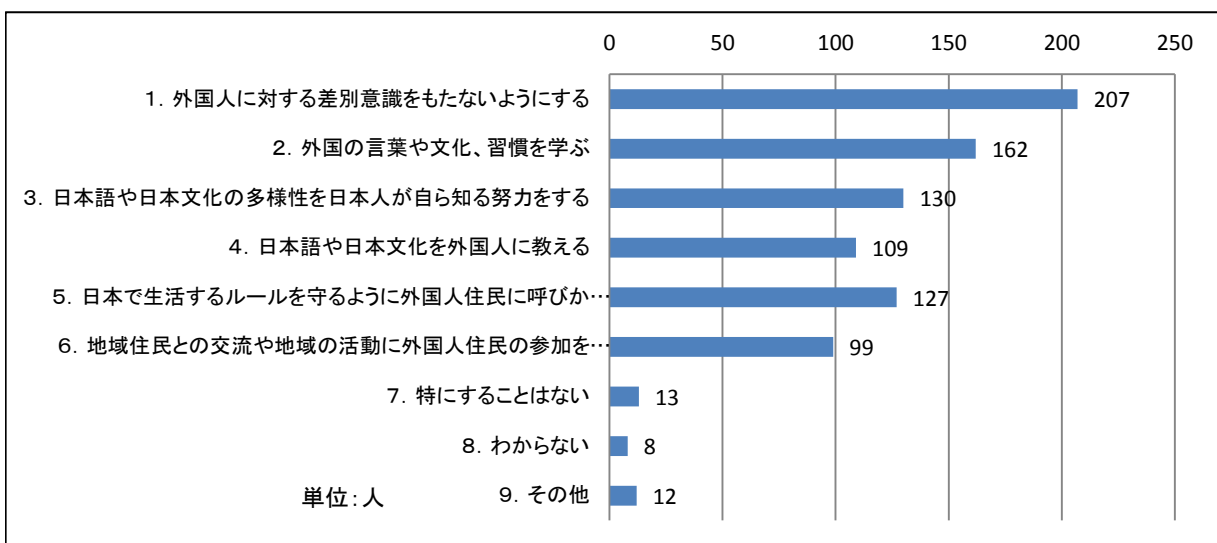
問8 地域社会で、外国人住民と共に暮らすことについてどう思いますか。(回答チェックは3つまで。n=347)

項目	人数(人)	割合 (%)
1. 多様性が豊かな社会になる	185	53.3
2. 地域経済の活性化、発展につながる	97	28.0
3. 外国の言葉や文化などを学ぶ機会が増える	204	58.8
4. 地域の国際化に貢献する	84	24.2
5. 習慣や文化の違いから、外国人住民とトラブルが起こるおそれがある	124	35.7
6. 日本人の雇用が脅かされ、低賃金化につながるおそれがある	22	6.3
7. 治安が悪化するおそれがある	84	24.2
8. 日本固有文化がそこなわれる	20	5.8
9. 特に影響はない	32	9.2
10. わからない	7	2.0
11. その他	9	2.6



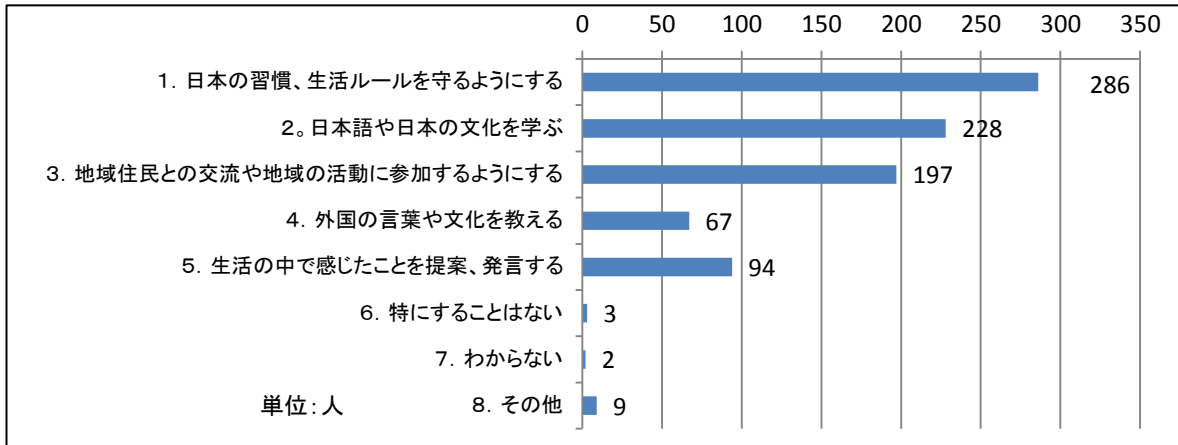
問9 日本人住民と外国人住民が共に安心して暮らせ活躍できる地域社会にしていくために、日本人住民は何をすべきと思いますか。(回答チェックは3つまで。n=347)

項目	人数(人)	割合(%)
1. 外国人に対する差別意識をもたないようにする	207	59.7
2. 外国の言葉や文化、習慣を学ぶ	162	46.7
3. 日本語や日本文化の多様性を日本人が自ら知る努力をする	130	37.5
4. 日本語や日本文化を外国人に教える	109	31.4
5. 日本で生活するルールを守るように外国人住民に呼びかける	127	36.6
6. 地域住民との交流や地域の活動に外国人住民の参加を呼びかける	99	28.5
7. 特にすることはない	13	3.7
8. わからない	8	2.3
9. その他	12	3.5



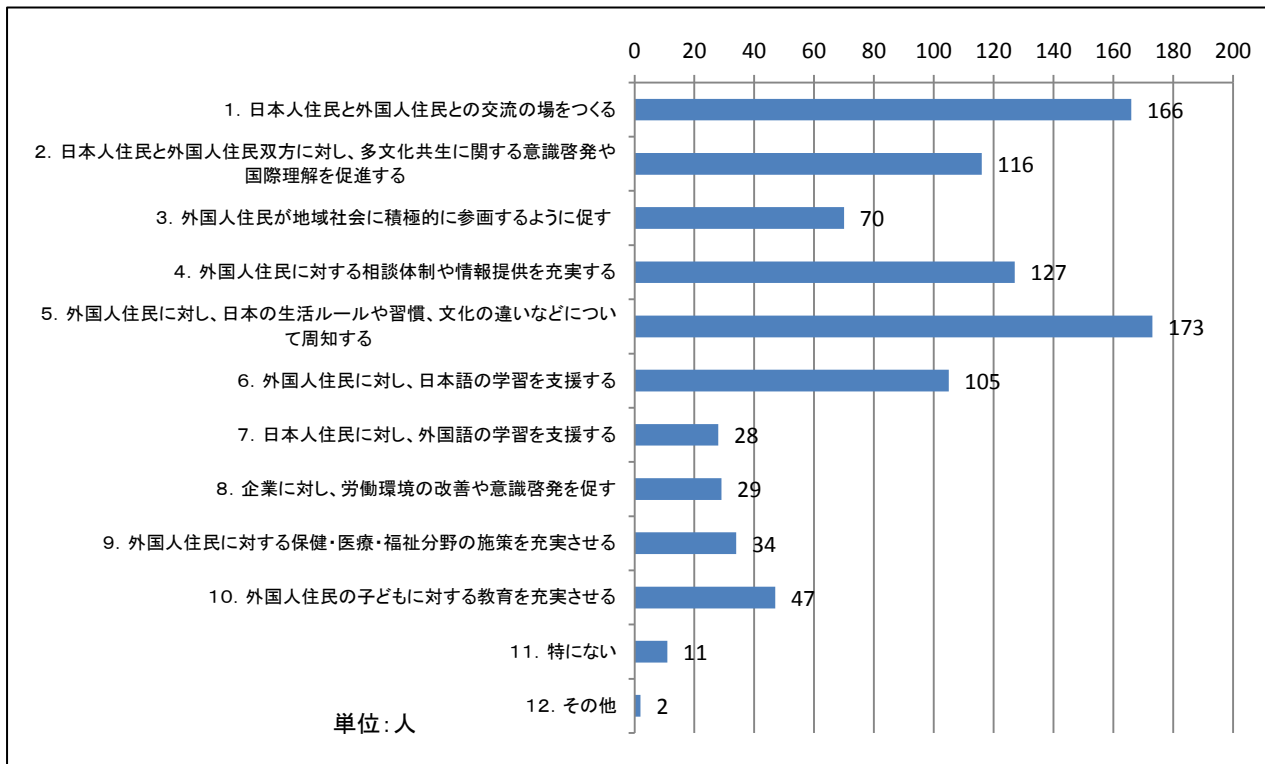
問10 日本人住民と外国人住民が共に安心して暮らせ活躍できる地域社会にしていくために、外国人住民は何をすべきと思いますか。(回答チェックは3つまで。n=347)

項目	人数(人)	割合(%)
1. 日本の習慣、生活ルールを守るようにする	286	82.4
2. 日本語や日本の文化を学ぶ	228	65.7
3. 地域住民との交流や地域の活動に参加するようにする	197	56.8
4. 外国の言葉や文化を教える	67	19.3
5. 生活の中で感じたことを提案、発言する	94	27.1
6. 特にすることはない	3	0.9
7. わからない	2	0.6
8. その他	9	2.6



問11 日本人住民と外国人住民が共に安心して暮らせ活躍できる社会にしていくために、県や市町などの行政は、どのような取り組みに力を入れるべきと思いますか。(回答チェックは3つまで。n=347)

項目	人数(人)	割合(%)
1. 日本人住民と外国人住民との交流の場をつくる	166	47.8
2. 日本人住民と外国人住民双方に対し、多文化共生に関する意識啓発や国際理解を促進する	116	33.4
3. 外国人住民が地域社会に積極的に参画するよう促す	70	20.2
4. 外国人住民に対する相談体制や情報提供を充実する	127	36.6
5. 外国人住民に対し、日本の生活ルールや習慣、文化の違いなどについて周知する	173	49.9
6. 外国人住民に対し、日本語の学習を支援する	105	30.3
7. 日本人住民に対し、外国語の学習を支援する	28	8.1
8. 企業に対し、労働環境の改善や意識啓発を促す	29	8.4
9. 外国人住民に対する保健・医療・福祉分野の施策を充実させる	34	9.8
10. 外国人住民の子どもに対する教育を充実させる	47	13.5
11. 特にない	11	3.2
12. その他	2	0.6



問12 その他、日本人住民と外国人住民が共に安心して暮らせ活躍できる地域社会について御意見がありましたらお聞かせください。(任意)(抜粋)

○ 生活出来る収入があれば、外国人、日本人、問わず安心して暮らせる。収入が安定する為の政策が大切です。全ての行政機関、医療機関の他言語対応は必要です。日常会話の日本語はなんとかこなせても、専門用語が多い行政、医療分野の日本語は理解出来ない外国人が多い為、急を要すると考えます。

○ 日本語教室のボランティアで外国籍の方に日本語指導しています。我々指導者もやさしい日本語の指導を日々一生懸命勉強中です。母語なのでそれをわかりやすく表現するというのはとても難しい作業です。やさしい日本語を一番学んでほしいのは行政窓口の方、企業や商売をされている方々だなあとつくづく思います。これから高齢化が進む日本に大きな力となってくれる外国籍の若者達のために、世界の人々に日本をもっと知ってもらうために、一緒に勉強しませんか？

○ 外国人との共存で大切なのは、言葉が通じる事(お互いの意思が通じる事)と、生まれ育って身に着けた生活習慣を、日本の文化に溶け込ませることと思う。特に子ども達に義務教育レベルの教養・知識を確実に身に付けさせるように、最大限努力すべき。彼らが、将来母国に戻ろうと、あるいは世界の他の国に移住しても、立派に過ごせるだけの教養・知識の供与は不可欠で、これは自治体の責任と考える。

○ 日本では外国人との共生の問題は文化の違いや生活習慣の違いによるトラブルが主なものになっている(ドイツなどヨーロッパでは自国の雇用問題が絡んでこの問題を一層深刻化しているようである)。共生問題を外国人労働者に限定して述べる。多文化共生を実現するには互いを尊重し認め合うことが最大の近道。それには外国人労働者への理解を深めるための啓発が必要かと思う。国や県がマスメディアなどを通じて、外国人労働者の必要性(日本の労働力不足の現状とそれを支えている外国人労働者の現状など)を正しく伝えればよいかと思う。日本人は、知らない人は敬遠しがちだが、知った人は親近感を持って優しく接することができるようになると思う。また、人が他人に優しくなれるのは自らの生活が安定している時で、そのためには外国人労働者が不当な条件で雇用されないことがないよう、企業に対する行政のチェック機能も必要かと思う。

○ 行政が、外国人への情報提供や相談窓口を充実する事が重要である。それが共生社会への第一歩である。また、大津市や他市で観光のインバウンドの話が出てきているが、それを受け入れる体制が貧弱。外国人住民の日本語教育を充実して、案内などインバウンドの協力者として活躍してもらえば良いと思う。

○ 外国人住民の子供に対しての教育が非常に重要。日本人の子供と異なるカリキュラムを用意し選択性とし、日本語での教育を基本として日本語の学習時間を増やし、日本人としての学習を行いつつ、各家庭の出身国や民族について考え学べる時間を確保する必要。

○ 地域の中でもこんなトラブルがありました！ブラジル人が夜中に外で音楽かけて騒いでいるし、ダンスしている。しかし住んでる地域は田舎で、夜は物静かな場所！苦情がすぐに自治会長にいきましたが、これは文化の違いでブラジル人にすれば、なんで怒られるかわからない！教えてあげることが先決だと感じました！文化の違いはトラブルのもとになりやすいし、勉強と理解が必要。

○ 日本人が海外に行くとその地域の言葉で話すように努力するように、外国人住民もまずはその地域の言葉文化を理解しそこに溶け込むように努力する必要があると思います。その上で相互理解がさらに進み、生活環境のさらなる向上や交流関係が広がるものと思います。外国人住民はお客さんではなくあくまでも一緒にその生活圏で共に生活する仲間にならないと、相互に安心した暮らしは実現しないのではないのでしょうか。「郷に入れば郷に従え」ではないですが、日ごろの生活マナーを相互に直しておけるような環境が期待されます。

○ ほとんど不可能に近いと思います。島国の保守的な国であり少し触れるくらい文化を取り入れて、合理的に新しいものを作ることは得意でも共生して生きていく 住むということ自体がどこかで受け入れがたいことになっていると思います。その思考そのものを変える、差別をなくすといってもきれいごとにしすぎず出来ないものであるということを前提に何かを動かさないと机の上だけの話だと感じ非常に無駄に思えます。

○ 個人情報保護の観点から、地域住民の情報が封印されている(住所録や電話帳等)場合によっては表れも掲示しない家屋が増加している。この様に外国人のみでなく、日本人同士でも隣人が何者かが判らない、連絡手段がとれない状況下では、外国人についても、なにをか言わん状況で有る。

○ 世界の中には宗教の相違から国民に宗教を押し付けている国があります。日本においても国家神道を押し付ける時代があり、現代になっても、自治会の神社の祭礼に不参加料を徴収するなど強制参加を強いている自治会があります。信教の自由の権利を認めない国や地域社会では日本であれ外国であれ、共に安心して暮らすことはできないと考えます。

○ 言葉や育った環境が全く違うため日本人住民と外国人住民が、共に安心してらせる社会づくりは、相当難しいと思います。しかし、これからの国際社会では必要なことでもあるし、進めていく必要があると思います。その為には、互いの交流の場を持ち、互いの文化や生活習慣をこつこつ理解していくことが必要と思います。

○ グローバル化、ボーダレス化が進展してインバウンド客が急増する昨今、外国人に対する苦手意識や偏見は著しく低減していると思う。しかし、定住する外国人と近隣に居住する日本人の間には未だ一定の距離が存在すると感じる。ただ子供達は仲よく遊んでいる。一方、国の施策に加え、県や市町村の地方自治体ではこの距離を埋めるために日本の習慣や生活ルール、日本語や日本の文化等々を学ぶプログラムや交流の場づくりなど諸施策を実施しているがいずれも大切な要素である。しかし、これらの施策を有効たらしめるには、外国人居住者を近隣生活者が先ず暖かく受け入れ、朝夕の挨拶をし、生活ルールを教えて交流を深め、この交流を町内全域に広めていくことが肝要と考える。子供たちはすぐに打ち解けるので、学校や子供会など更なる支援があればと思う。多文化共生の推進は少子高齢化で大幅な人口減少が予測される中、我が国喫緊の課題である。

○ 職場で外国人と一緒にです。彼らは日本にきているという立場で、必死に日本語や慣習、文化を吸収しようと努力しています。いろんな外国人がいると思いますが、その大半は異国の地で不便なことも多いなか、地域になじもうと努力されています。日本人として受け入れる立場では、外国人とうまくつきあっていけるように努力も必要で、配慮もするべきだと思います。たとえば言葉を教えてあげたり、文化を教えたり。これからの国際社会にむけて外国人との共存は必須となりますので、異文化、異言語の人との交流の場を増やしていきたいです。行政の支援で、そのような場も設けてほしいです。